

昭和三十年一月十四日

財團
法人
人口問題研究会
人口対策委員會
第六回總會
議事速記錄

財團
法人
人口問題研究会

財団法人人口問題研究会人口対策委員会第六回總會議事速記録

場 日
 時 昭和三十年一月十四日(金曜日) 午前十時三十五分開会
 所 虎の門共済会館

出席者(本会顧問及び役員名簿の順)

委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員
森	美	三	藤	新	渥	安	本	館	岡	古	北	永	下	永	松		
濃	口	原	林	居	美	芸	多		崎	屋	岡	井	灸	井	岡		
優	時	信	敬	善	育	皎	龍		文	芳	寿		康		駒		
次				太													
三	郎	一	三	郎	郎	一	雄	稔	規	雄	逸	亨	曆	潛	吉		

幹 幹 幹 幹 幹 委 委 委 委 委 委 委 委 委
事 事 事 事 事 員 員 員 員 員 員 員 員 員

黒 岡 上 木 篠 渡 西 中 南 河 福 矢 山 小
野
田 師 田 屋 崎 辺 入 川 崎 田 野 中 沢

俊 光 正 善 信 友 亮 ナ 邦 一 篤
太 三 太
夫 男 夫 郎 男 定 徳 長 郎 ッ 三 郎 郎 龍

(代理)

○ 永井委員長

たいへんお待たせをいたしました。これより委員会を開会いたします。きょうは三十四、五名御出席の通知があつたのであります。まだ半数しかおいでになりませんが、十時半になりますから開会いたします。

この前、ちよつとお断りしておきましたが、この前、議案を当日になつて配付いたして何とも申訳なかつたのであります。これは図表を係りの者で直しておる間にどうとう一ヶ月の日数を費やしてしまつたのであります。そのために、直つた図表ができ上るのが開会の間近かになつて、どうしても前もつてお配りすることができぬようになりました。深くおわびを申し上げます。まつたく私どもの不行届から起つたことであります。

人口対策委員会第一特別委員会決議 人口収容力に関する対策要綱（案）の審議

○ 永井委員長

今日は、この前に続いて御審議を願いたいと思ひます。その前に山中特別委員長から御発言がございます。どうぞ。

○ 山中委員

お許しを頂きまして、一つ申し上げたいと思ひます。私どもの特別委員会の決議ができるまでの間のプロヒスと大体の気持を示すための文章の表わし方が少し抜けていたこ

とがありますので、今日幸い前回に引続いて総会が開かれましたので、この際簡単な文言を原文につけ加えさせて頂きたいと思ひます。これは手続的な問題であります。決議の一八ページから(4)の項目が起つて一九ページで終つておりますが(旧プリントの一五ページ)それに続いて(5)を入れて頂きます。

(5)以上は、人口収容力の見地からみた人口対策の大綱を総論的に指示したものであつて、各論的、実践的な主要事項については、逐次、審議を完了した都度、決議を行う予定である。

説明する必要はないと思ひます。私どもが委員会をやつて参りました気持をはずきりさせるためには、それがあつたほうがいろいろ後々のためにも好都合かと思ひまして、特に説明的に決議いたしたい、こういうわけであります。

○ 永井委員長

北岡さんからこの前おまわし願つた「労働人口増加対策(雇用増加政策試案)」、これは皆さんに私の名前で郵便でお送りしてあります。皆さんお持ちだろうと思ひます。それに関連して、この原案の審議をする上に、北岡さんからお説明を……………。

○ 北岡委員

きようは黙つて、皆さんにそれを読んで頂きたいと思つておつたんですが、永井さんから何か、ということですから、一言述べたいと思ひます。

この特別委員会の決議は非常によくできておりまして、いわば秀才の答案です。実際にツツがない。間違いがなくて、非常に妥当なことを言われておるんですけれども、私から見れば少し妥当すぎて、人口問題研究会が世間に対し何かサジェストするには足りないように思われる。皆ごもつともで、無難な意見で、言うこともないんですが、いわば

上過ぎる。無難過ぎ、りつば過ぎ、間違いなさ過ぎてサジエヌチオンが少い。私は少しくらい間違いがあつても、現在の日本の混迷しておる政治界、経済界に対して示唆を与えたいと思つて書いたものであります。私自身もこの案の欠点はいくらでも指摘できると思ひますけれども、しかし私は現在の日本の政治並に産業界の考えておるような考え方はいかぬ。日本の現在の政治界はどう考えておるかという点、とにかく日本は輸出を盛んにしなければいかぬ。これはだれも異議がない。輸出を盛んにしなければ日本人はめしも食えなければ自動車にも乗れない、着物も着れない。それがためにはデフレでなければならぬ、コストを下げて産業を合理化して行かなければならぬ。これも異議がないんですけれども、それがためには失業やむを得ず、こういう建て方です。私はこれは困ると思つてはいます。いかに日本が輸出が必要だからといつて、失業やむを得ずでデフレ政策をやらせては国民は窒息する。私は、輸出はやる、しかしながら同時に失業者をなくする、多くの国民に仕事を与えるといふことでなければならぬ。このことを各方面から言わなければならぬ。松岡さんなんか、勤労階級を代表して、声を大きくしてデフレの失業者が出ては困ると、やつて頂かなければならぬと思つてはいますけれども、同時に、われわれ人口問題について発言の機会を与えられた者は人口問題の見地から言わなければならぬ。この前の本委員会の中間報告にもございましたように、年々七十五万の職業を増加しなければ失業がふえるんだ、このことを声を大にして言う義務がこの人口問題研究会にはあるのではないかと思ひます。そこで私は、輸出増加といふことと同時に、雇用増加を両立させる案を立てなければならぬ。

これは、もとより容易じやない。どうせこの案は実行困難でございますが、しかしながらどうすればできるんだ。かりに普通の方法ではできない条件を含んでおりましても、

こういう方向に向わなければならぬということを使う必要があるのじやないかと考えましたので、その見地からこの私の拙案を書いた次才であります。

拙案の要点はきわめて平凡でありまして、今日ケインズを中心とする近代経済学者の言つておる、ケインズ、ビーヴァリッジ、ハンセンのラインをごく平凡な言葉で言つたに過ぎないと思つております。

二、三の点について申し上げますと、才一から二、三、四までは、今までやつたことをずつとまどめたのです。五になつて、失業防止の根本策はどこにあるか。いわゆるケインジアン主張を一言に要約して、低廉豊富な資金を供給することが失業防止、雇用増加の根本策である。ただ問題は、この場合にインフレが起るといふことが考えられます。そこで、インフレを防止するにはどうしたらいいか。これについてケインジアンといろいろの学者が言つておる各学説を述べたつもりであります。ケインズとしてはこんな細かい言つていないので、ビーヴァリッジ、ハンセンのことを言つておるのであります。一番大事な賃金の抑制については、ケインズは賃金が上つてもいい、上つてリアル・ウェージが下つてもいいといふのであります。それはごくわずかな程度といふ前提であつて、程度を越えれば有害なことはわかつておる。そうしてケインズ以外の、ケインズの流れを吸むケインジアンは賃金は上げてはならぬ。方法はビーヴァリッジは労働組合幹部の良心に期待する、ハンセンは少し違ふのですが、それぞれ多少の違いはありますが、賃金の抑制が資金を豊富にして物価並びに賃金を上げない唯一の方法であると言われておると思ひます。

その次に、六からは、現在の営利主義自由放任の経済のもとにおいては雇用増加の余地は乏しい、ことに日本においては乏しいのじやないかと思ひます。産業を振興するこ

とは大いに必要であるとしても、雇用減少によつて産業を振興する必要があると言われ
ておりますが、そういう部門が多い。農業についても、日本の農民の生活程度を上げる
ためにはどうしても農民の数を減らさなければならぬ。

工業を盛んにして輸出を振興するには諸工業で労働者の数を減らさなければならぬ。商
業についても、これを盛んにして生活程度を上げるには商業の数を減らさなければなら
ぬ。営利主義、自由主義の日本の現経済界においては、事業の振興ということは同時に
労働者の生活程度の向上、同時にコストの低下ということを考えるならば、どうしても
あまりに多いところの労働人口を減らさなければならぬ。もちろん他方においてふえも
しませしうが、減る部分が多いので、この部分において雇用増加の余地がはなはだ少
いのじやないか。

矛七において、公共事業をすれば日本においては非常に多くの雇用増加の余地がある
といふことで、私の結論は主としてここにあるつもりであります。この点については私
は、ビーヴァリツデやハンセンの主張とまつたく一致してゐるつもりであります。彼ら
は、公共事業に資本をつぎこむことが雇用を増加する方法であると言つてゐるのであつ
て、私の書き方は非常に雑でありましたが、趣旨はそれと一致してゐるつもりであり
ます。

最後に私はそれについていろいろの問題をあげたのであります。公共事業を増大し
てもうまぐさえやれば、日本では決してインフレは起らぬ。この、うまぐさえやればと
いふことがミンで、これは実行困難であります。

実行困難であります。うまぐさやればインフレはないはずである。今後、日本でやらな
ければならぬ公共事業はすべて生産的なものにする。道路をよくすれば、すぐそれで自

動車のガンリンが節約される、運賃が下る。住宅をつくれれば家賃が下る、能率が向上する、交通機関の混雑が緩和される。植林をすれば木材ができる。その他、日本の現在の公共事業で生産的な事業が非常に多いから、うまくさえやればインフレにならぬということをつたつてあります。批判の点はここにもあるので、そんなことできやしないよ。才一、日本でこんな公共事業をやればすぐワイロをとられて、政界が腐敗するといふ意見もある。こんな公共事業をやつても日本の失業者、ことにこれから出て来る中学、高等学校、大学を出た若者の要求するところの職業との間には不一致がある。公共土木事業をやつたつて学校卒業生の就職を満足できないといふ批判も起るでしょう。いろいろありましようが、それはこまかい点でして、大筋においてはやはり私は、政府はほんとうに国民のために正しい政治を行うもの、国民は社会の必要な仕事をするもの、この前提でやれば、公共事業に金をつぎ込んでもインフレにならぬということをつたつてもあります。

最後に、十一、十二は結論的に同じことをくりかえしたのであります。現在すでにあるところの膨大な失業に加えて、年々若者の就職がごまかすから、このままほつておこならば、日本は仕事がないから、何か仕事をしまししようが、ますます農村に不完全就職がふえる、ますます工業が無用人間をかかえる、ますます小売商、パチンコ屋、飲食店ができて競争が激しくなつて、生活程度を低下する。ますます役人がふえて国民の負担を増す。要するに、生活低下、重税によつて国民は二重、三重に苦しむことになるだろうと思ふ。この際、こういうような現象に対して抜本的な計画を立てて、長期の計画経済、統制を加えた計画経済を立てるといふことを、だれかが日本で言う必要がある。現内閣はそういう点について割合に熱意があつて、石橋さんなんか、口を開けば完全雇

用と言つてありますけれども、どうもあまりに粗枝大葉というか、樂觀的というか、金さえ出せば失業者は起らぬ、生産さえ増せばインフレは起らぬかのようによて考へておりまして、その過程において賃金が上る、物価が上ることを押えるという点について考へが足らぬように思ひます。私は、石橋さんなんかの完全雇用論者に対して大きなサポートを与えるとともに、こういう方面は注意しなければならぬ、こういう点は反省しなければならぬという、反省と意見を加えることが本委員会の義務でもあり、また現在の混迷してある日本の政治、経済に一つの示唆を与えるのじやないかと思つて、こういうものを書いたのであります。欠点の多いことは十分承知してあるんですけれども、欠点が多くとも、私は何か大筋について、わが国の今後の政治、経済の動向に一つの示唆を与えればいいのじやないかと思つて書いた次第であります。

○ 永井委員長

ありがとうございます。北岡さん、いかがでしょうか、すでに山中さんからお話になつた項目をつけ加えられたのであります。主として労働力の収容に関する問題、すなわち失業問題であります。それらについては必ずこの第一特別委員会のほうで審議が継続されて、結論が出ようと思ひます。そのときには、あなたの御案も大いに参考になろうと思ひます。今日のところは特別委員会の決議、この原案を御審議願うことにして異論はないでしょうか。

○ 北岡委員

もちろん異論はありません。

○ 永井委員長

それでは、どうぞ御質問なり御意見なり、御自由に御発言を願ひたいと思ひます。

私から重ねて申し上げますが、この原案は、一般の過剰人口について一体どういうぐあいにとの方面に収容できるかということをしたためたものであります。人口問題と言つてもつかみどころがありませんから、こういう方面に着眼して対策を立てるべきものであるといつて、大綱を示されたものであります。個々の問題についてはなお審議を続けることになつております。そのつもりで、原案についての御質問や御意見を伺いたいと思ひます。

○ 北岡委員

この原案については、私、この前意見を申し上げて、私は当りまえに申し上げたつもりであります。速記録を見たら、山中委員長が激昂して、おこつておられる。

これは非常に名譽に關するから取消せということでありませう。(笑) いささか驚いたんですが、もう一ぺん申し上げてみたいと思ひます。

この原案は、前文を見ますと、資料としては非常に貴重な資料で、私ども教えられるところが多いのですが、決議としては、どうも少し長過ぎると思ひます。ああでもない、こうでもないという議論が多いと思ひます。決して有害なものではない、結構なものではありますが、やり直すとすればもう少し簡単に、積極性のあるものだけにしたらどうかと思ひます。

対策要綱については、初めに「合理的な就業機会の増大を中心とした経済の計画化及び産業構造の徹底した再編成」ということが書いてある。これは私は大賛成であります。ところが、内容を見ると、ちつともそれにふれていない。今後、各論で御審議になるのかもしれませんが、今後の決議を楽しむをもつて待つておるわけでありませうが、内容を見ると、輸出の増大をはかれどか、化学工業を盛んにしろどか、販路の確実でかつて

きるだけ原材料の自給できるものを選ぶべきであるとか、外資の導入は就業の増加に役立ち、かつ同時に日本の将来の産業の発展を阻害しないような場合に望ましいとか、弾力性ある施策をもつて就業の手をあらゆる点に延ばさなければならぬとか、みなもつともなんでありませう。けれども、これではすべての人が言つておることばかりでありまして、現在の政府並びに実業家が言つておること以外の何かの新しい、特に人口問題研究会が違つたアングルからこういうことを要求するといつたような点がなさ過ぎるのじやないか。これを私はよくでき過ぎておる。無難過ぎると言つたつもりで、これが名譽毀損かどうか。私はそう言うしかないので。あまりよくでき過ぎて、だれも言つておるようなことばかり言つておるのでは、人口問題研究会がせつかくこれだけの長い日数を費やして世間に出すものとしては、あまり効果がないのじやないか。これじや結局今まで言われておること以外に策がないといふことになるが、これが山中さんの忌諱にふれたらしいんですが、私はちよつとも足りない感じを持つのであります。もう少し、ほかの部門では言われていないことを言うのでなければ、人口問題研究会の決議としてあまり意義がないのじやないか、といふことを重ねて申し上げます。

○ 山中委員

また北岡さんからお教えを頂きまして、この前私がたいへん激昂したといふお話でありませうが、そういうつもりはなかつたので、いま速記録を見ましたら、私がおこつて言つたのでないことが、皆さんがお笑いになつたといふことで出ておりますので（笑）これはもう御安心が頂けるのじやないかと思ひます。この前そういう御発言があつたのでありませうが、これは対策がないといふような御結論がありましたので、対策が何もなしといふのは困る。対策のよなものや私ども委員会としては考えたわけなんでありませう。

して、対策がないということに困ります、その点は一つお考え直しいただきたいという意味なんでありませう。きょうの話も速記録に残るようでありませうから、北岡さんのお話のみを承りますと北岡さんの解釈なすつた通りになつてしまふおそれがありますので、蛇足でありますがつけ加えさせて頂きたいと思ひます。

私どもの考えた案というのは、まことにおつしやる通り、毒にもならなければ薬にもならない、こういうことだろうと思ひます。この点は、私の案ではなくして委員会の案なんですけれども、やはり北岡さんの個性と私どもの個性との若干の違ひも出てくるのかもしれない。どうも私どもは勇気がないものですから、ある一つのことを申しまして、それが万全でないことがわかつてあるときには万全でないということをおしやれば気が済まない。万全でない点についてはこういうつつかい棒があるだろう。だから建築の構図として見ると、つつかい棒が方々にあつて、何か見た目がすつきりしない。こういうことになるのじやないかと思ひます。これは委員会でも皆さんの御議論をまごめるといふ点も多少とも加味してありませう、私の個性がいくらかそこに入つてあるのじやないか、こういうふうに思ひます。ただいまのお話の中で、たとえば雇用が割合に多くて、比較的原材料を使う割合も少く、なおかつむだな労働力の投下にもならないで済むような産業部門というものは、提出できる若干の資料があるのです。ただ私どもは、まだ不幸にしてその資料を使うことができない。昭和二十五年以来行われておる工業ヒンサスは、少くともこと製造工業に關しては決して万全ではない、資本関係のことがわかりませうが、今までの日本の統計資料に比べると、事業に投下された原材料と労働力と、その出て参る附加価値———という言葉で表現されておりますけれども、これも誤解を招く言葉だと思ひますが———附加価値というものの計算ができるわけであり

ます。今まで日本ではそういうことは、研究したくてもできなかった。これが統計局その他の非常な尽力の結果、日本でも曲りなりにもプロダクション・センサスができるようになった。これを利用すれば、かなりはつきりした産業の選択もできる。ただ、それを名指すことが、残念ながらこの委員会の審議の過程ではできませんでした。私も何べんかお願いしたんですが、困難は、予算の問題と統計技術の問題があつて、ある一つを出すと、ただ一つの事業会社の成績が官庁統計に出てしまふという問題がありますから、どこかでこの資料を利用してつくる統計的作業をされれば、非常にいい判断材料が出てくる。こういうこともございますので、何か教科書みたいなものを書きましたのも、そういう理由に基くのであります。できないことを言つておる、そういうつもりはなかつたのであります。これは、ただでさえ長くなつてしまつて、短かい文章でスパッと気持よく要点だけが出せると非常にいい。この点も、表現上の不手際もあるかもしれませんが、うまくできないうで、かえつて長くなつた。だから、また方々削つて、一そう不十分な点が出ておるのではないかと思ひます。その点はそういう趣旨で御了承いたただきたいと思ひます。

○ 永井委員長

私も特別委員の一人として蛇足を加えておきたいことがあります。それは、何回となく委員会を開きましたときに、委員の皆さん方の多数の御意見は、中間報告として出したというので、一番特別委員会が力を入れたのは前文のところと、それに伴う図表であつたのであります。これに非常に力を入れて、できればこの日本の過剰人口の問題を、人口の側から見た問題であるということ、世間にわからせるように中間報告で出したというお考えであつたのです。そのとき私は、あまり審議が長くなりましたから、どう

か対策をそこにつけ加えて、概括的な対策でもいいから、こういう方面に着眼をしても
らいたいという対策を加えるようにお願いはできませんか、というので、また委員会で御
審議を願いますして、その結果この対策要綱がここに加わつたわけでありませう。そういう
次第でありますから、北岡さんのお考えと特別委員会の方々のお考えとは話が食い違つ
ておりますので、特別委員会のほうではこれですべての具体的結論を出そうという考
えではなかつたのであります。おそらくこれから御審議を継続して行けば、先ほど申し
上げたような趣旨で、労働力の人口をどう収容するかという失業問題、就職問題、いず
れも必ず何か結論が出るのではないかと。今回のこの案は、もともと中間報告で出した
という委員会の御希望であつたくらいなものでありますから、これによつて初めて人口収
容力の所在がわかる、こういう意味で世間を啓蒙せんとするのに最も必要であるとい
う意味合でありますから、その意味でひとつ御審議を願いたいと思ひます。蛇足を加えて
おきます。

藤林さん、どうでしょう。

○ 藤林委員

私も、あまり熱心な委員ではありませんでしたが、特別委員会の委員の一人でござい
まして、でき上つたものについてはたいへん北岡さん、おほめくださいましたから、つ
いでに御承認を願うことにしまして、(笑)……………。

北岡さんの御案も、そう言つてはあれですけれども、非常に具体的な案もございませう
けれども、しかしやはりごく一般的なおつしやつていらつして、北岡さんの御意見
でわれわれの案に対して多少修正するものがあれば入れて……………。北岡さんのほう
で言えば、住宅建築云々くらいな御意見がございませうが、そういう御意見については、
きょう山中委員長のつけ加えられましたように、個々の具体的問題については自後こ

の委員会としてもいろいろ問題を取上げるつもりだということなんですから、それはひとつ御了承願いますして、一般的な総括的なこの委員会の結論について、若干字句その他で修正をしたり追加をしたりするようなこととお認めを願えるのじやないかと私は思いますかね、どうですか。

○ 北岡委員

あまり、ほめたと言われても困るんです。(笑) 優等生の答案で非難するところがない、よすぎるというので……………

○ 山中委員

過ぎたるは及ばざるが如し……………

○ 北岡委員

ほめたつもりはない。(笑) 積極性が出ない。私が言いたいところは、二点ある。一つは、もつと大きく低廉にして豊富な資金を出す、政府のデフレ政策ではいかぬということです。デフレ政策と失業というものはおよそ反対のものですから、デフレ政策はいけない。豊富にして低利な資金をどんどん出さなければ失業はなくなるぬ。ところが、どこを見てもそれが出ていない。これは根本問題ですから、ぜひ検討してほしい。矛二は、今までの自由経済というか、そういうた現在においては産業振興の道があつても、雇用の増加の道はあまりないと私は思うんです。山中さんが、人も多く使つて効果の上る産業を云々……………と仰せられましたが、そういう仕事もないことはごいませんが、むしろそうでない、コストを下げて輸出を盛んにするには人を減らさなければならぬという仕事がありますに多く目立つ。たとえば、ある製造会社で最も進歩的な機械をまわすと、人間の数が十分の一になる、しかも生産がふえる。薄板鉄板の圧延工場で最新式の

機械をまわすと、労働者の数は十分の一になる。コストは下る。輸入が防遏される。先般マツダランプの東芝で、機械一つまわせばそれで日本の電球の需要は全部足りる。群小工場はみないらぬといったものがある。そういった仕事が非常に多いと私は思うんです。失業になつては大変だから進歩的な機械はまわすな、できるだけ人間の手のこむようなものでやれということになつたら大変だと私は思う。やはり輸出振興にはほとんど機械を使つて、労働を節約して、コストを下げて、輸入を防遏し輸出を増加しなければならぬ。従つて、新たな方面において雇用の増大を探さなければならぬ。それは先ほど申したように、営利事業じゃない、公共事業である。公共事業にそういうものが非常に多いので、この点を私は強調したい。私の強調したいことは、資金を出せということと、公共事業で大いにやれということです。もとよりこれには多くの弊害もあり、条件もあります。その点を入れてほしいのですが、どうしても特別委員会の決議の中にはそれが入らないのです。上手に、器用に入れば入れて頂いて結構でありますけれども、私は固執するわけではございませぬけれども、せつかくこういう委員会ができて、天下に人口問題の見地から完全雇用対策といったことを唱道する機会を与えられたのですから、みながピクツとするような案を出して、天下を驚かしたい。こういう子供らしい考えであります。(笑)

○ 藤林委員

北岡さん、そう撤回せんでもいいですよ。どこかに入りませすよ。しかし、今あつしやつたことも、非常に秀才の一般的感覚なんじゃないですか。

○ 山中委員

話の途中に入るようで、はなはだ恐縮ですけれども、若干委員会の案の中身について

の御批評もありましたので、きよう御出席のかたもあるようですから、この前申し上げたことで説明の足りない部分を一、二つけ加えさせて頂きたいと思ひます。天下を驚かすというお話がありました、私どもも正直の話、天下を驚かしたいと思つております。このままで人口の問題を置きつ放しにされては、長い見通しは別として、非常に心配である。どうしても問題の所在だけは疑いをいれない形で知つてもらいたい。正直に申しますと、そのことがむしろ人口対策というものの中心になるんじゃないか。非常に過剰になつて参る労働力をどこに吸収するかというところは人口問題の重要な部分でありますけれども、専柄が何と申しても人口に関係するので、ここにおいてになるかたには、そんなことは釈迦の耳に念仏で不必要なことでありますけれども、世の中の人に異論の出ないような形で、問題はこうなつておるんだということを知らうことが、実は人口対策の最も大事な点じゃないだろうか。こう考えましたので、非常に時間もかけて、ことに人口問題研究所にはぜひぶんどめいわくをかけたんですが、私どもも手足がないし、自分でできないものですから、人口問題研究所の能力をできるだけ使わせて頂いて、永井委員長のお話のように、前文の部分に実は力を入れました。資料として強い弱い區別が若干ございますけれども、一応はどこからもこれについては異論は出ないであろうという資料と、それに基く事実——です。私どもが頭の中で理くつただけで考えてかういうふうであるぞというところは一切抜きにして、言いたいこともあつたんですが、これは遠慮して頂きました。永井さんにもだいたいぶん遠慮して頂いた記憶があります。そういうふうにして、どこからも、これなら当然そうだとやつて頂けるような資料に基いて事実の指摘をする。これが実は人口政策というものの最も大事な部分じゃないか。こう考えたものですから、御列席の方々には当りませだと思ひになるようなこ

とかほとんど全部ですけれども、それに力を入れました。従つてあのほうは驚かすところではないだろうと思ふんですが、私どもとしては別に手を抜いたということはないかもしれませんけれども、自分たちの気持としては前文の所に非常な気持の重味がかつてゐる。こういうことは正直に申し上げていいのではないかと思ひます。

それから、今、二点が足りないとおつしやいました。これは藤林さんもそんなことはないはずだと言われまして、雇用の機会をふやさなければいかぬということは何言つてあります。今日、赤手空拳で雇用の機会をふやすわけには参らない。近代的、合理的雇用——雇用は何も人に使われることではございません。自分が自分を使つても少しもさしつかえございません。近代経済学ではエンプロイメントという言葉を使つておりますから誤解はないだろうと思ひますけれども、とにかく新たに資本の投下というものがありまじやんと、ほんとうの意味で外国と競争のできるような労働の使い方はなかなかできないのじやないかと思ふんです。ただ、それをインフレーションでやるかどうか。インフレーションにしないようにやればいんだということですが、不幸にして私どもの現在まで持つております知識では、その心配なしに資金をどんどん出してもインフレーションにならぬと言いきれるだけの知恵がまだない。ケインズその他の議論はございませけれども、イギリスのような均質的社会ではそういうような議論もできるわけでありませうが、わが国の場合においては不幸にして社会の構造が違つてあります。それが断言できないのです。公共事業その他の問題もございませうが、これは私どもは才二次産業、才三次産業ということでも多少ともそれは考へたつもりであります。ただ公共事業という形で考へなかつただけであります。

それから、最初の前提にしました、つまり経済をできるだけ計画的にしなければいけ

ないだろうといふことであります。この中にはデフレーションに対する批判も、従つてまた野放図もないインフレーションに対する批判も当然入つておると考えておつたわけでありませう。そのほか、この言葉を使ひますのは若干疑懼がある。計画的経済といふと、一部の人の言葉の使ひ方では、ソ連の経済でなければ計画でないといふ使ひ方をされるかたもございませう。たとへば混合経済といふ言葉、これは北岡さんの御案の中にもございませうが、イギリスその他のやつておることは混合経済であるといふ見方もあるようでありませうが、あれは混合経済じゃない、資本主義的、計画経済でないところの経済であるといふ批評もございませうから、言葉の使ひ方では私どもはつまらない苦勞をしておるわけでありませう。

そういうこともございまして、私ども個人の気持としてはできるだけ経済は計画的にしなければいけない段階に来ておると思ひますけれども、そのやり方については、これまた人口問題を越えた非常にめんどうな体制的な問題がございませう。個人として言ひたいことはございませうけれども、それは協議の結果、かういふ会といふ団体が出すことに、このような会では多数決といふことはできません。会でございませうので、ここで多数報告、少数報告を出すといふことは非常におかしいと思ふんです。国会ならば多数少数があつても、それは背後にはつきりと少数なり多数なり、分野がわかるのでありますけれども、言つてみればある一部のかたがお集まりになつてやつておる人口問題研究会でございまして、ここで表決をして多数票、少数案といふようなものを出すことは、事柄自体として非常におかしいと思ふのです。ですから、できるだけ皆さま方の総意がまとまつたところで出すといふことで、中身は非常に平凡であつても、社会に対する説得力は、あれだけいろいろのかたが集まつておつてもこれだけのことは言えるとい

うことになれば、非常な説得力を持つ。人口対策に対する限りは、社会党であろうが、自由党であろうが、民主党であろうがどのような政府ができて、さしあたっての日本を問題にする限りはこのわくの中で考えて頂かなければならぬのではなからうか。こういうことを考えたのであります。私、あやまつて特別委員会で委員長の仕事を抑せつかつたのですが、委員長の席をけがすものの個人としての考え方として、扱ひ方としてはそのように扱いたいと思ひましたので、たいへん審議にも手数がかかりましたが、委員会においでになつたかたから、できるだけの意見を出して頂きまして、衝突しない限りで全部をできるだけ盛るところを試みてみたのであります。蛇足でございますが、つけ加えさせて頂きます。

○ 北岡委員

資金を出せばインフレになる、インフレになるということは物価騰貴になるということですね。資金を出せば物価騰貴が起るということなら失業対策はできない。失業者を出して輸出を盛んにするという、現在のデフレ政策にまさるインフレ政策を実行することになつて、私はどうもそれには賛成できない。私は、資金を出しても物価騰貴にならぬ方法があるという見地をとるものでありますから、この点は意見が違ふと思ひます。それから、計画経済はソ連の経済だといつたそんなバカなことを言うのに囚われる必要はない。今日、計画経済をやらなければ、輸出振興と雇用増大を併行させることは絶対できない。この点について、そういうことを避けたいというならば、これは私は反旗を翻えすほかはないのであります。

もう一つ言いたいことは、今までのままでふえて行けば雇用がこれだけふえる、としまりに書いてある。たとえば九ページ（旧版）に「過去の日本の産業の就業人口吸収率

の発展が今後と同じように行われるものとしても」云々と書いてあるが、この考え方には私はあまり賛成しない。過去の日本はどうして増加した人口を収容したかというところ、零細企業、国民経済的に必要でない中小企業、パチンコ屋、飲食店、パンパン、そういったあまり望ましくない方法で、生活程度を低下して人口を収容したのです。われわれはこういふ方面に人口を吸収してもらいたくない。新しく増加するものは、収入的に生活程度を低下するという国民経済を弱体化するような方法でないもので、もつと健全な生産的な、国民経済を發展せしめ生活程度を向上するような方面に向うということをつてほしい。従来の経済の發展によつて自然に増加人口が吸収されたものを肯定するよ
うなことは、私は言いたくない。この点についても不賛成の声をあげておきます。

○ 山中委員

最後の点は北岡さんの誤解ですから、これは御心配頂かないでもいいと思います。ただ、われわれが一つの計算の方法として、やりようがないからそういう方法をやつてみたのです。それでいいとかいうことは、どこにも言つていない。それでは困るといふところが全体を貫いてありますから、御心配頂かないでもいいと思います。むしろ彼らが北岡さんの御意見に賛成してあるので、その趣旨で書いてあります。うそじやありません。

それから、インフレーションの問題。これは、インフレーションとは一体何だとゆうことを議論してもしようがないので、御遠慮申したいと思ひます。ただ、その点について私どもが、資金を出すといふことについて何も意見を言つていないといふふうにお考え下さることはまずいのです。就業増加に必要な資本の調達といふことは一七ページの(3) (旧一四ページ)にございます。「財政的方法による資本の増大が今後重要である」

ということはその意味で申してあるのであります。これは、今日の日本の経済が非常に苦しくなつておつて、いたずらに資金の増加をやると、ともすればインフレになりそんな体質になつておるので、国家資金という問題が非常に重要だと思ふのです。どうしても重要な役割をになうといふことは常識だと考えていいのじやないかと思ひます。それはそこにに入れてあります。これも、いまの御意見に私どもは賛成をしておるといふ意味で、御異論はないと考へていいのじやないかと思ひます。

もう一つ、計画経済です。これは私どもも計画的な体制としての経済といふことを主張いたしましたので、そのために、大ざつばですが、いろいろ細かいことが、各産業部門のことやなんか出ております。これを自然に自由にやるといふことでなく、計画的経済体制の中でやつてほしいといふ意味であります。自由経済に任せたらそうなるだろうから、そうなさいませといふことでなく、国民経済政策といふものをこういふ線ではつきり立ててほしい。そういうことになれば、いやでも単なる経済政策の形成ではなくて、最近の日本の経済のように、景気がよければどこかに金を使わせてしまふ、あとでデフレをやらなければ困るような所に陥つてしまふといふような十九世紀的な自由主義経済のやり方では困る。ですから最小限度、あらゆる意味で計画といふ言葉をお使いになるかたが皆同意される、マルキストから自由主義経済学者に至るまでこういう意味の計画といふことなら賛成していただける。そういう意味を含めて計画といふ字を使ひましたが、なつかつそれでは気持ちが届きませんので、この対策要綱にはその趣旨で「経済の発展を促す体制として」といふ字をわざと入れておいたのです。私どもはむだに入れたつもりはないのであります。体

体制として計画的にやつてほしい。ですから、その点では、北岡さんの御意見と私ども

と完全に一しよであるかどうかはわかりませんが、大部分一しよであるとお考え頂いていいのではないかと思います。

○ 藤林委員 大体同じ意見です。

○ 永井委員長

森田さん、あなたの所で人口対策に対する基本的調査を試みていらつしやるということも伝聞いたしました。統計局長として原案の組立てについての御意見を聞かせて下さいませんか。

○ 森田委員

私、非常に怠慢でありまして、実はこの決議の草案もよく拝見しておらないのであります。私が、お話を伺つておりました、また日ごろ考えておりますのは、私の考えでは、日本の人口問題については結論は簡単なであります。一つは申すまでもなく、これからふやさないということ、一つは今も遊んでおる、あるいは遊ばなければならぬような状態にある過剰人口に職業を与える体制を研究すること以外にないのであります。従つて、人口問題の立場から、こうした結論の明らかな問題により以上立入つて参ります。すためには、単なる人口問題としては解決できない。特に就業の機会をふやす問題については、もつと広い経済の問題でなければならぬ。私自身としては、こうした人口問題研究会の仕事のあり方として、どこまでその問題につつこんで行けるかということについて、はつきりした結論を下し得ないのであります。しかしながら、もし人口問題研究会がこの仕事をさらに立入つて考えて行く縮命に置かれているのであるとすれば、どうしても経済の問題をもつと掘下げて考えて行かなければならぬ。ただいまいろいろお伺いしておりますと、北岡先生から、具体的な結論が出ておらないじやないか、もつとアツと言わせるような案がほしいというようなお話が出たのであります。私はごもつともだと思ひます。しかし、それは今申しましたように、人口問題の狭い考え方の範囲内ではそういう案は出てこないものであつて、もう一歩広い経済の問題に入つてこなけ

ればならない。そこで私はこの決議案をぼやつと拝見しておりまして、山中委員長からいろいろ御説明がございましたが、その就職の機会、完全就業の可能性をどの方面に開拓するかということについて、先ほど工業統計のこまかい資料を分析すればそこにいろいろ具体的な解決の方法が発見できるんじゃないかという示唆があつたのであります。そうした仕事をこの委員会として取上げて、その仕事を具体的に進めて参りまして、そうして日本の経済体制をこうしたほうがいい、こうした体制を整えればこういうふうな人口が収容できるというふうな、具体的な結論が出て参れば、北岡先生のおつしやるような懸念もある程度防げますし、この研究会の仕事がほんとうに生きて来るのじやないかと思ひます。ただ、そういう仕事をこの研究会で取上げるべき性質のものであるかどうかということについて、はつきりした確信が持てないのであります。しかし、今後の活動の方向としてはそれ以外にないのじやないかと思ひます。結論は明らかでありません。就業の機会を増さなければならぬ。どうしたら就業の機会を増せるかということが問題なんであります。それであればその方向に仕事を進めるよりしかたがない。そこで私は、この決議の中にそうした方向への活動の意思を表明して頂きたいと思つておつたのであります。追加の小さい紙片に三行でその意思が表明されておりますので私はその点においてはこの決議に何らつけ加えるものはないと考えております。研究会の仕事として今後そういうふうな方向に進むべきであるかどうかという問題を、皆さんのお考えに訴えてみたいと思ふのであります。

○

永井委員長

松岡さん、忌憚ない御意見を聞かせて下さい。

○

松岡委員

私は、北岡さんのおつしやる通り、あまりにりつぱにできて、反対論者が突く餘地を
与えないことをいろいろ考慮されましたことが、そういう方面があまりに過ぎたために
及ばざるがごとしで、結論的なものが焦点がはつきりしない。必ずしもこれではいかぬ
というのじやないが、焦点がはつきりしないために何かもの足りなさを感ずるといふ氣
持が、北岡さんの議論には強い。私も多少そういうことを感じないではございません。
しかし今のお話もありました通り、小さい紙片で(5)がつけ加えられたことでもございま
すし、今予算化されなければならぬ大事なときではありますけれども、何と申しても
選挙管理内閣であります。選挙が終れば才二委員会の追加決議が、きようおそらく採択
されるであろうこの決議に基いて、さらに焦点をしばつたものをそういうときに、お出し
になるほうが、政治的にはあるいは効果があるのではなからうかという氣もいたします
私自身も焦点をしばつて頂くことは希望いたしますけれども、しいて今あちこちの文章
をいじつてそういうことをしないでもいいのじやないか。これはこれとして、この趣旨
に基いてしばつた決議案を適当な機会に、ある程度のこと限定してやつたほうがむし
ろ効果的ではないか。これには一切必要なことが羅列してあるわけですから、そういう
方法をおとり下さることのほうが、かえつていいのじやないかと思つております。

○ 西野入委員

まことに失礼であります。私、少しく訂正してみたらどうかと考えることがありま
す。それは一九ページ(旧一五ページ)の(4)の(2)の1)の四行目に「大学その他の研究機関
における基礎的な人口研究の普及発達をはかる必要がある」とあります。そのことはた
いへんごもつともであります。私は単に基礎的な人口研究の普及発達に限らないで、も
つと範囲を広げたいのであります。結論から先に申し上げますと、基礎的な人口研究というこ

とだけでなくして、少しく大きすぎるかもしれないが、もつと徹底的にするためには五つものを加える必要があるのじやないかと考えますのでそれを申し上げたいと思ひます。文字はまだ訂正の余地がありますが、私の気づいた気持を現わすために五つ書いてみたのであります。才一は、純正哲学。才二は、民族生命の理論的研究。才三は、食糧そのほか富を増産することに對する可能性のサイエンティフィック・インヴェステイション。これは国内と國際の両方であります。才四は、國際的に人口を移動することの可能性。才五は、栄養學の立場から、食糧の最も低廉にして栄養が最大なものは何かというこの科學的研究。こういうものにまで行かないと、人口問題の對策がサイエンティフィックには立たないのではないかと存じます。と申しますのは、人口對策はいわゆる政策でありまして、ある目的を達成するところの手段以外の何ものでもない。手段を論ずる前に私どもは、その手段によつて達成する目的をはつきりしなければいけない。換言すれば、日本國家というものは、一体何を目当てにして存在するのであるか。國家民族生存の意義、わが日本國民のもつ使命は何であるか。そういつた國家哲學が確立しないならば、ほんどうの健全な對策は立たない。私どもがいま論じておることを考へてみますと、目安は大體日本國といふこの狭い範圍内に閉じこめられておるわれわれ日本人が、そこで失業もなく、病氣もなく、そうして高い生活程度を保つて安穩な生活をして行ける、ということが目安のように私には感ぜられます。しかしその二つについて私は反省を要すると思ひます。つまり、日本がいまこの狭い所に立てこもつておるといふことは敗戦の結果でありますが、こういう状態がこのままに、國際的に將來永遠にとどまるものとは思ひません。日本はどまろうと思つても、國際狀態が動いて参りますと國際的にはそれは許されぬ。シナは五億の人口がさらに増加し、ロシヤは二億以上に

なつてさらに日本以上の高い出生率を持つております。アメリカすら高い出生率を持つております。南の方の新しくつくつた国の人口増加は白色人種の脅威の的になり、将来をきょうきょうとして心配しております。日本人がこれを感じないのは、むしろふしぎです。ですから、いま私どもは国内に非常に人口が多くて問題であります。それが二十年、三十年後になると、世界の情勢はどんなに変るかわからない。人間は自然の動物ではないのですから、意思によつて自然の生き方を動かさないので、私どもがどまらうと思つてもほかの国の意思によつて動かされます。そのときにわれわれ民族の位置はどうなるのであるか。決して今のままに止まるのではないということを、はつきりわれわれは認識することが一つ。

それから、一人人間の生存の目的が、そういった安穩な生活を目指すということがほんとうの使命であるか。二千年の昔、ヘブリユウの予言者は、理想のない民はついに亡びると言つております。理想がなくてわれわれは安穩に生活し得るかどうか。そういうことを研究することは非常にむづかしい問題であります。非常に必要なことであります。つまり根本が確立しなければ対策は墮落になる心配が相当あります。国を興すつもりでかえつて亡ぼすおそれがないとも限らないのであります。ロンドン大学のトインビーは過去六千年の歴史を顧みて、理想のない民はついに亡びて行つておるといふことを立証しております。彼の言葉を借りないでも、私どもが静かに世界の歴史を顧みればよくわかることであります。現在のことを見てもわかるのでございます。そういう意味においても、いわゆる人生、あるいは民族の目的を持つが持たないかによつてその民族の生命はどういうふうに変つて行くか、また文化の変化によつて民族の生命はどういうふうな波を打つて行くか。それに対する理論が日本では立っておりません。そういう根本を

確立しないで、ユニテイーを顧みないで、おいて対策、対策と申しても、それは船の行く方向をはつきりしないで、おいて航海のことについていろいろ議論するのと同じで、行く先がわからぬので、どつちへ行つても結局同じ結果になってしまう。大局から見れば、まったく策のない行き方をした結果になつてしまふ心配があります。ですから、人生の根本的哲学と、民族の生命に対する根本的理論をもつと確立する必要がある。

才三は、富の増産であります。いま私どもは与えられた科学の範囲内でも、これを十分に利用すれば現在の富は何倍にも増産することが出来る。日本のような、物資が少くないという国にあつては、ケミストリー、フイジックスその他のものをもつと応用するならば、いま私どもがまったく無用の長物と考へておるものの中からどのくらい富ができるかわからない。少くその道の科学者に聞いてみれば可能性が非常に多いのであります。私どもは海洋に關しても、国内の不用の土地に關しても、あるいは太陽の熱に關しても、ほとんど研究が進められておらない。食糧の増産についても非常に可能性が多いのであります。たとえばクロレラの研究に關しても、おそらく今の日本の数倍の栄養がある。国内で使わぬもので出来るというものを専門科学者は考へておる。しかるに、日本の政府は少しもそのほうに金を出しておらない。ただ、田宮先生がわずかな金をもらつてやつておるだけでありまして、足りないものですから、徳川さんの研究所に行つて欠を補つていらつしやるけれども、国策的立場から見れば、日本のように食糧不足を感じないアメリカの研究にも及ばないような貧弱な研究をようやく続けておる。食糧が不足して困つておる日本がどうしてもう少しこのほうに金を出すことをしないか。そのほうの専門学者がなぜもつと熱意をもつてやつてくれないか。それはひとりクロレラの研究だけではない。そのほかにもいろいろの方面にわれわれが頭を転換して行つた

ならば、その研究の可能性、それがうみ出す富の可能性はきわめて大である。しかるにそのほうの研究はほとんど進まない。また、世界の人口と富との割当の不平等なことは非常な不平等である。それが国際平和の上に非常に有害であつて、白色人種はそれから来る世界の混乱を恐れております。もし有色人種が目をさましてその方面に輿論を喚起するならば、白色人種はこれらのもに道を開くことが必ずあるに違いないが、有色人種の先覚者であるわれわれ日本人がほとんどその方面に動いておらない。もつと私どもはその方面の研究をし、科学的に国際輿論を進めるところの道を開く必要がある。さもなければ人口対策が確立いたしません。

その次にもう一つ、さらにもつと違つた方面であります。医学の立場、栄養学の立場から私どもは食物の研究をもつとする必要があります。私どもは情性によつて食物をたべて、原始的な生活をそのまま続けておる部分が相当多いのであります。日本人のみならず、白色人種においてもそういつた欠点がありますが、日本人においてもその欠点がかどに大であります。これを科学的にもつと研究して、国民の啓発を行つて、その上科学的な研究を完成に導くといふことが必要であります。かのようなことを見ますと、いま日本国内においてむだに使われておるものの中からたくさん富を生産することによつて、人口の扶養力は大きなのであります。かような研究をいたして、その上にはつきりした人口国策を確立することができるのであります。

要するに、国家民族の生存の目的をはつきりすること。それから今度は、それを達成するに必要な可能性がたくさんある。それに対してはもつとサイエンスイック。インヴェステイションを進めて行く。これをやらなければほんどうの人口対策は確立いたしませんから、大学その他の研究機関においてはこういう方面にもつともつと徹底的に

行くように、これを具体的にうたつて頂きたい。そうして私どもは国家に対して、政府に対してその方面にたくさんの研究費を支出せしめる。ほかのほうは節約しても、この方面にたくさんの国費をついやすことは、最もまわり遠いようであつて実は最も能率的な行き方だと思ひます。ですから、この根本を確立することのためには、日本の国費の一割くらいはついやしても惜しくないと思ひますから、そういうことをここに明記して頂いて、国家に建議なさる場合には、それを当事者の胸に落ちるように正しく御説明願ひたい。そういうように私は感ずるのであります。たいへん失礼いたしました。

○ 南委員

私、この決議案の処理の方法について技術的な面からちよつと申し上げてみたいと思ひます。この案がここまで参りましたプロセスについては、すでに永井委員長から御説明があつておわかりの通りに、私ども特別委員で主たる努力を注いで長い時間をかけたのは、ほとんどもつぱらと言つていいほど才一の部分であります。その審議の途中で対策のほうが出て参りました。それで、それを取りまどめる際に、私、実は特に希望を申し上げたのであります。それは、この対策も一しよに入れるならば、対策のほうはいわば附録のような形にして頂きたい。力点を前のほうに置いて、これを中心にして、分量も、できるならば、前のほうを三分の二にして、あとの対策のほうを三分の一くらいにして下さいというところまで申し上げたのであります。そうして、こうしてでき上つてしまつて見ますと、分量は前と同じようになつたばかりでなしに、才一のほうは前文になりまして、つけたりになつてしまつて、対策が主文になつてしまいました。実は、私ども審議の経過から申しますと、ちよつと思わざるところへ重点が移つた気がするのでございます。それで、対策のところを今回の決議の主たるものにしてしまふならば、こ

の対策それ自身については細目的にいろいろなことが出てくるだろうと思ひますし、山中委員長が言われた通り、なお今後具体的細目にわたつて研究される。それから森田さんのおつしやる通りに、ここへ入り込みますと、ちよつと手におえないような部分もだいたいぶん出てくるのじやないかと思われ、大事な部分になる。それで、私、技術的にこういうように取りまどめて頂いたらどうかと思ひます。それは「前文」というところを「前文」としないで、これは大事などころで、これだけでも私は結構だと思ふんですが、これを「才一分析結果」として頂く。それから、「才二対策要綱」は、一見すると慎重審議した結果、ことごとくを網羅したという印象を、要綱ということから与えます。そういう意味では決してないはずなんで、その証拠には、工業とか貿易というところは相当詳しく言つておりますけれども、原始産業の部門についてはほとんど何も言つていません。そのほか、まだいろいろございましょう。そういうものを「要綱」として全部網羅するというように考えられたらどうかと思ひます。むしろこれは、何行目かの所に「基本方針」という言葉が出ておりますが、いわば、「対策の指針」というような形にされたらいかがであらうか。あとのほうについておる数字、事実その他一切は、才一の主文の説明資料になるわけです。以上を申し上げます。

○ 山中委員

先ほど西野入さんからお話になりましたことが、ここでどういふふうにお取扱ひになるかわかりませんが、いま南さんからお話のありましたことは、南さんの御趣旨はわかるのですけれども、委員会の決議としてこういうふうになつたものを、今ここでかえることには反対いたします。別に私、議論しようとは思ひませんけれども、私自身としては、委員会の御議論を盛つたものをここに出したつもりでありまして、今お話がありま

したように、前文に非常に力を入れたということは委員会全体の気持なんで、私もこれを前文とすることは必ずしも気持よくなかつた。むしろこれは前文でなく主文といつてもいいのじやないかと考えておつたのでありますが、従来のこういう決議案の形式があることで、それによると、大体対策要綱を先に書いて、どこでそういう考えたかということをおの主文に書く。その対策要綱はできるだけ簡単に、すぐわかるように箇条書きで書く。そういう慣例があるそうであります。それを実は、私は、むりに永井さんにお願ひしてやめて頂いて、主文というか前文というか、これを出した。分量から申せば半分くらい同じくらいです。前文にはおしまいにグラフが全部ついておりますから、これを入れると三分の二が前文になる。文はこれだけしかないが、一応私も委員会の気持はこれを出ているのではなからうか、こういうふうに思つたのであります。前文という言葉を出さういうふうにおかえになりますか、これはここで一つ御協議いただいてもいいと思ひますけれども、全体の取扱いの骨子としては、委員会の全体の御議論でどなたにも御意論がないと思つてこの形に到達したわけでありまして、その審議過程を御尊重いただきたいと思ひます。御心配になつた趣旨は一応これで出ておるのじやないかと思ひますので、大体これであまり細かい修正はなしにしてお進め頂きたいと、私としては考えております。何か特別委員会の中に異議があつたような形になりますと、そういうことはどこかで片づけておかなければいかなかつた、私どもとしては申訳ないことになります。錦上花を添えるというか、一そうよくしようというお気持でああいう御発言があつたと思ひますが、私どもとしては委員全体のお気持を比較的盛つたつもりで、上手ではないけれども、こういうものができたつもりでありますので、その点はひとつ御了承を頂きたいと思ふのであります。

ついででありますので、西野入さんの御発言について私の意見を申し述べさせて頂きたいと思ひます。実は(4)の(2)の1)でお読みいただいた部分は、日本の大学でやつておることはどれを見ても決して十分であるとは私も考えられないのでありますけれども、ここにおいでの方南さん、美濃口さん、西野入さんはすでに十分御承知のように、わが国の大学におけるデモグラフィイの研究が非常に欠けておる。これが事實なんでありまして、講座としてできておる所はほとんどないのじやないか。私の関係しておる大学でも、科目はございますけれども講座はできておりません。こういうことは、他の欠陥に比べてもまことに著しい欠陥ではないか。その意味でいろいろ考えますと、ことに教育体制であります。永井さんもしばしば特別委員会に出て頂いて、そういう資料関係、電力エネルギーその他について専門家からいろいろ御意見を教え頂いたわけでありまして、点が方々にあることはわかつておりましたが、それを皆あげてしまうと、とても、どうにもしようがありません。そこで人口に関する、人口研究の普及発達ということで、大衆でやつていないという状態だけでも最小限何とか変えてほしい。その趣旨でお氣持のある所をこういう形で現したのであります。

また、科学技術の問題であります、これはその3)の所に「わが国科学技術の一層の発展をはかることが必要である。」というふうにうたいました。先ほどお述べになりました全部ではございません。民族精神というようなことは科学技術の中に入つてこないと思ひますが、あとの部分は、できるだけせういふ問題を考える必要がある。一々のことをここにあげることにはできませんでしたが、それは別として、とにかく科学技術の振興という大方針は必要であるというところで、そこにあげました。御提案の趣旨は私も、無視してはいたわけではないので、一応考えたのであります、取扱ひ上、人口の

ほうは講座までがないのですから、ほかのものに比べても非常に見おとりするように思われますので、そこにあげました。

○ 南委員

私先ほど申し上げたことは強く固執するわけではございませんけれども、山中委員長にちよつと申し上げておきたいと思ひます。私の発言は、特別委員会で決議なされた決議を取消せと申し上げておるのではございません。その所が、記録に残つて、妙なことが残るといけませんので申し上げますけれども、修正意見を申し上げたわけなんで、その点ひとつ、妙な誤解の残らないようにして頂きたいと思ひます。修正意見でも意見を述べることができないならば、特別委員は總會に出ても何も発言することができなくなる。それでは無意義になりますから、それはそれとしてあらためてまた全体では考えることができると思ひます。その点どうかお含みを願ひたいと思ひます。

もう一つ、「前文」ということは決議の中にあつたものですか。私、記憶がはつきりいたしません、前から出ておつたものかどうか。決議もそうなつていたのかどうか。

○ 山中委員

これは最後のところでできましたもので、最後に見て頂きましたのがグラフのところ。が少し變つておりますが、それだけで、あとは一字一句、私が自分でやつたのではない事務局でかつてに修正したということはありません。

○ 北岡委員

ちよつと、一言。山中委員長の言葉じりをとらえるようであります。西野入さんのお話しになつたことについて山中委員長は、人口研究をデモクラフィーと考へておられるとするならば甚だ遺憾であります。その点は西野入さんの提案に賛成したいと思ひま

す。人口問題は、デモクラフィーというような狭いもので、デモクラフィーの講座があればそれでいいという考えでは非常に困る。「人口問題の広汎にして総合的な研究の普及」だけでも書くことにして、人口問題をデモクラフィーと解釈しない。字句の修正になります。

○ 山中委員

私が申しましたのは、そのような狭い意味のデモグラフィの研究すら日本では講座になつていない。だから私は、人口研究はデモグラフィだけだということには言つていないのでありまして、西野入さんの意見と私の意見は違つていないと申し上げたいのであります。

○ 北岡委員 あらうですか。

○ 矢野委員（代理。斎藤）

私、代理で出てきたのでありますから、後ほど歸つて報告いたしますのに、こういうことがあつたかどうかということを一点伺つておきたい。

もう一つは、前文の一番最初の所に「日本の人口は大正、昭和の境から」とございませうが、境からという言葉はわかりにくいのであります。大正末期か昭和初めとか、どつちかに和初めであるか、はつきりしないのであります。大正末期か昭和初めとか、どつちかになされたほうが、むしろ一般の人間にはわかりやすいのじやないかと思ひます。

一つ伺つておきたいことは、こういうことでございます。昔、読みました本の中で記憶しておることがある。それは一九四一年ごろケンブリッジ・プレスで出ておる本であります。その中に世界状況を簡単にかいつまんで紹介してございまして、すつとあど

に日本の項目がございましてそのころ日本は、国際連盟を脱退したり、満洲事変を起したりしておつた時代のことです。日本人というものは非常に世界から誤解されておる国民だと書いてある。日本人は自分の国の中では自分たちを養うだけの食糧がでないので勤勉努力して貿易をして輸出をして食糧を買つておる国民だということが前提に書いてあつてそのあとにこの日本人を生かしてやるためには二つの方法があると考えられる一つはわれわれの本国及びわれわれの植民地において日本人を遇することあたかもわれわれの日本人、植民地の人間と同じようにすることである。これはおのずから関税撤廃とかいうことになるでしょう。それでなければもう一つは日本人の思うがままにアジアのヴァレーを開発してやることだ。当時のことですから満洲とかシナということでしょう。この二つしか日本人を生かす道はない。最後にこの二つながらわれわれはいやだと思つてある。(笑)そこで世界の人間はやはり依然としてそう考へているんじゃないかと思つてある。日本の人口問題を論ずる場合に国内の問題としてだけ議論するがいいか。あるいはこの際封鎖国家ならともかくとしてわれわれは封鎖されておるのではないから関税障壁の撤廃とかそういうことも言つていいのじゃないか。あるいはまたアジアのヴァレーをもつと開発さしてもらつてもいいのじゃないか。いつまでも敗戦直後のようなインフレーションオリテーイー。コンプレックスというか、そういう気分でもないのじゃないか。十年も経つておるし、そろそろ世の中も変つてきておるのじゃないか。アメリカの日本に対する考え方も變つて來つた。国際情勢も變つてきておる。この際何か言つたほうがいいのじゃないかという氣持もいたします。そういう議論が特別委員会でございましてか。あつたのをわざと書かなかつたのだということもあるかもしれない。また文面の中にどこかふれておる点があるかもしれない。この点をお教へ願いますと私帰つ

てから報告するのに非常に便利であります。

○ 山中委員

今の問題は、移民の問題が中心になるのでありますが、私どもの議論の中では、委員会がどのようななかの中でやつておるかということにはあまり気にしないで、フリー・ト
ーキングをやりました。そのときには移民の御議論もいろいろ皆さんから出ました。けれども、決議案をつくる場合には、委員会の分業のようなものができておつて、才二特別委員会のほうでそれは主としてやつて頂くことになつておるものでありますから、われわれは関連しなければならぬと思ひましたけれども、わざと対策の中から落しました

○ 矢野委員（代理。齋藤）

移民ばかりではないのであります、これからやはり日本も外交的に、日本の使節が方々で活躍しなければならぬ。そういう人たちのつかい棒になる、支えともなるようなものが、やはり日本の国内の議論の中に出ていいのじやないか。日本の人口問題を解決する一端として、関税障壁の撤廃とかなんとかいうことも外交官の連中はやるのじやないか、その支えになるものが出ていいのじやないかと思ひます。そういう議論もありませんかどうか。

○ 山中委員

そういうことは、もちろんたいへん問題になりました。いまお話になつたような具体的な形でというよりは、むしろその背後にある、現在日本が国際貿易の上で通常の貿易関係すら与えられていない事柄が方々にあるのではないか。こういうことは日本の就業の増加という問題を片づけることは非常にむづかしい。それに多少ともふれることを一五ページ（新）で貿易関係の確立が必要であるということ、外に對する主張という

よりは自分のほうに向つて、そういう努力をしないという表現をしております。それから、「大正、昭和の境」ということでありますが、これは漠然とした計算で、十年ごとにしております。初めはもつと詳しく書いてあつたのですが、やさしくしようということ、だんだんこういうふうになつたのです。これは事実の指摘の問題でありますから、たとえば何年から何年、いつからこうなつたというようにすれば、御指摘のような誤解はいくらでも防げると思ひます。

○ 新居委員

非常に結構なものを拜見させていただきました、また聞かしていただいたのですが、きょうお配りになつた(5)に「各論的、実践的な主要事項については」いすれ審議をするという言葉がありますから、あるいはそつちに入るかもしれないませんが、先ほど西野入さんから(2)の啓蒙運動と研究について御意見がありました、私は啓蒙運動というところでお考え願ひたいことがあります。ここで文章を直す直さぬという問題よりも、私の希望を申し上げたいと思ひますのは、ここに、この問題は「一般国民の深い理解が窮極の必要事である。」どうたつてあります、これはほんどうに大切なことであります、一般国民に行く手段として、行くまでの過程として最も大切な層がありはせんかと思ひます。それは、現在の政府及び地方公共団体の首脳部、今では公務員の首脳部が、この人口問題を、わが国の現状及び将来という観点からいかに必要であり、困難であり、いかに自分たちが日々やつている施策につながりがあるかということ深く自覚することが必要じゃないかと思ひます。先ほど北岡さんから公共事業を興すということを力説せられました、その公共事業を興すか興さぬか、興すとしてどういう計畫をするか、あるいはその計畫をどういう順序で実施するかあるいは実施する上において機械力を使うと

いうことを完全雇用ということと相背馳するということ、現象をどう調整するか。そういう問題をやる上において、でもそれらに当る公務員の中堅のかたがその大きな問題を頭に置いてやるのと置かずにやるのとの違いは非常に大きいと思ひます。ですから国民に理解させる上において各分野において、そういう見地からいろいろ論議することを、それ自身が国民に知らせる一段階にもなる。この問題が単に計畫でなくして、実践までふみこむことでありますならば、やはりこの層に相当の重点を向けることが必要だと私は思ひます。これは人口問題ばかりでなしに、政府の施策としてややともすると、自分のひざ元の有力な幹部すら理解できず、一部面だけにとらわれるというセクシヨナリズムの弊も出てきやすい。また国民に徹底する上においてもうらみを残す点があるうと思ふのであります。公務員の数から言つても、いま数百万とも言われておりますから、国民の中の数から言つても非常に大きい指導層である。また、実際やつておる事柄が人口問題解決の多岐にわたるとどこかの部分にふれておりますから、戦術から言つても、またほんどうに国民に知らせる道程から言つても大切なことではないかと思ひます。これに対してほんどうに人口問題のいかに切実であり、重要であり、困難であり、総合性ということをおのおのが考えなければならぬということを知らせることをする必要を痛切に私は感ずるのであります。自分の狭い経験から申しまして、この人口問題研究所をつくるときにおいても、昭和十四年度の予算だつたと思ひますが、民間では、人口問題研究会で非常に苦勞して、犠牲的に勉強しておるのに、政府に人口問題の機関がないというのはいかぬじやないかというので、予算を出したが、なかなか認められない。自分の省においても査定がある。また復活要求する。最後の段階においては、ほかの予算に支障があるからそれをがまんしろとまで、私は言われたのであります。しかし、これは国家に必要なからどうしても出さしてください、私どもだ

けで取つて来ますというふうなことを言つて、館君が非常に骨折つて資料を盛えてくれて、ほんとうに不眠不休で働いてもらつたのであります。そのときに、客観的にあれはとても望みがない。大蔵省に行くといふ人口問題は厚生省の所管ですかと言われる社会局の所管ですかと言われる私は「どこの所管でもいい。国家のために必要だから認めてください。あとできればどこへでもその予算はやりませう。」と言つて歸つて来て、「主管省にはこういうことを言つてきたから、あとでどこでもいるなら、この予算をやつてしまえ。」と言つたので、すが、そのときに、内外において人口問題の重要性が、ほんとうに認められないことを痛切に感じたのであります。今、お話を伺つておりましても、予算の問題、あるいは政策の立案の問題、あるいは研究費の問題、いろいろの点において現在の政府が現実に行ふことに直結する部分が多分にある。大部分のことはそこにありはせぬかと思ふのです。そのときに、大臣だけの力ではとてもやれるものではない。各省の中堅あるいは地方公共団体の中堅以上のものがなければ、ほんとうの資料もなかなか揃いにくい。また施策においても欠けるところがあると思ふので、政府がほんとうにこれが重大な政策であるという確信と熱意があつたならば、まずそういうほうを総合的に理解させ、それでほんとうに力を合やすことが必要であると思ひます。戦前以上に、戦後においては各施策の部面が連絡が非常に不十分であると私は思ひます。ここに各権威者がお集まりになつて、熱意を傾けて、衆知を集めてせつかくいいものができても、単に設計だけにどまつて、ほんとうに実施する面につなかりがなく、あるいは表面だけのつながりであつて皆さんと同じような熱意と、ほんとうに国家を思う熱情がなかつたならば、せつかくのこの委員会もむだになりはせぬかということを憂うるものです。だから私はこういう機会において、ほんとうに政府、少くとも中堅以上のものにこの人口問題の本質なり、ま

たそれが自分たちの日夜やつている仕事にほんとうにつながりがあるということを知らせることをやつて頂きたい。それがここにある「一般国民の深い理解」に行く段階でもあり、またすぐ役に立つことではないかと思ひます。

蛇足ではありますが、五・一五事件のあとの斎藤内閣のときにおいては、予算の分取り合いで非常に困つて、一千万円の予算を陸軍にやるか、海軍にやるかということ、内閣が倒れるかどうかというときに、当時石渡さんが大蔵省の人事のほうをやつておる課長で、秘書官をかねておつたので、お目にかかつて、こういうことを言つたのです。「とにかく予算を各省でつくつてしまつて、閣議のときにあの老齢な高橋大蔵大臣だけに防禦させるといつても無理じやありませんか。利根川が太平洋に落つる河口においてとめろといつてもだれもとめられはせぬ。ちよるちよる流れておる間に少しづつ方々でとめればとまる。わが国の財政のほんとうに困る状態を各省の中堅以上の人にわからせる必要がある。予算はどうせそういう所からできるから、そこで少しすつても良心的にやれば効果があると思ひます。」こう言つたのですが、三・四年たつてから大蔵省からパンフレットを出して、財政の状態を知らせるということをやられた。石渡さんというかたは、どんなやつこの言うことでも耳を傾けて、よければ実行する人だと思つて、私は非常に敬服したことがあります。国民に知らせることは最も必要なことでありますが、その前の段階、あるいはそれと同時に、各省の重要な連関をもつ所にそれをやる必要であります。人口問題研究会それ自身もそういうふうがあるのであるかと思ひますが、また政府に対してはそれを強く要望することが必要じやないかと思ひます。またあとの各論的のときに、印刷になつてから言つたのでは間に合わなから、きようはどうかと思ひましたけれども申し上げておきます。

もちろん、この案そのものについては、私、ほんとうにしろうとでありまして、非常に教えられるところが多いことを感謝いたします。先ほど山中さんから御説明くださいます。至れり尽せりの案を出していただきました。私個人としては原案としてはこれで御賛成申し上げたいと思います。

○ 山中委員

ただいま非常に私ども賛成申し上げたい御意見がありました。幸いなんでありまして。実は二〇ページに附帯決議をあげておいたのであります。これはただいまの新居さんの御意見に大体合致することになるのじやないかと思ひます。人口の専門家ということだけでないに、人口問題に關係あるいろいろの方面のかたに集まつて頂いて、そこで人口問題に關する理解並びに研究、調査の發展を進めるような全国的な會議を開くようにしたらどうか。これだけではとても足りないけれども、まず才一着手として、これは昔やつておりました人口問題全国協議会、あの形ででも結構だと思ひます。あれもすいぶん、中央、地方の行政官庁の才一戦のかたが集まつて、意見も言つてくれましたし、話も聞いてくれたというところで、非常に有効だったのであります。あれをぜひ一つ、何とか皆さんの御推進でどこかでやつてもらふようにしたい、という意味で附帯決議をつけましたその点一つ、お含みおきを願ひたいと思ひます。

○ 新居委員

私もここを拜見しまして、そういうこともあろうかと思ひますが、私は性急かも知れませんが、少くとも中央の各省の中堅以上、首脳部には講習会くらいまでやつていいのじやないかと思ふんです。若い連中に聞きますと、相当関心を持つておるんですが、資料もなし、今さら聞くのもメンツというような気分のある人もあると思ひます。有志

う。そうして内閣の力によつて各省にどんどん働きかけることのできる権限を人口問題研究所長に与える。そうしますと、その権限の範囲から研究の分野も広くすることができ、予算をたくさん取ることができます。そうすると、日本で一年に一兆の予算があるとすれば、一千億までは取れないまでも、数百億は取れる可能性が出ると思っています。それは熱意の働きによつてできます。その項目をここに入れて頂きたいのです。

○ 下条委員

だんだん皆さまの御議論を拜聴しておりまして、いずれも有益な御意見で、傾聴いたしましたのであります。ところで、この才一特別委員会の決議を通読いたしますと、北岡さんがこの間からお述べになりましたように、きわめて優等生の答案でありまして、あらゆることが網羅され、しかもきわめて適切に表現されております。ただ、北岡さんの御希望のようなくらいに針を刺すような強さのない点はあるいは見方によつては欠点かもしれません。私も、実は完全雇用には公費の支出を増加するほかにはないという考えを持つておる点においては北岡さんとまつたく同意見であります。しかしインフレーションとの関係もありますから、どういふふうにやつたらいいか、どういふ面に増加したらいいかという点については相当議論があると思いますが、とにかく才一特別委員会の決議はこの問題に関するすべての点を網羅し、かつ最も適切に表現されておる点におきまして、一応この通り御決議願つたらどうかというように考えております。特に、山中委員長がさらに御指摘になりました人口問題全国会議、これはぜひ具体的に実現願うように希望いたしますと思ひます。どうぞこれで御決議願う。

また必要なことは、これで才一特別委員会は終つたのじやございませんから、また逐次展開されて結構であります。また各論的、実践的方面は(5)にありますように、今後御

決議になるのでございますから、その意味において原案通り御決議願つたらどうかと考
ております。

○ 永井委員長

だんだん時刻が移りますが、先ほど西野入さんの修正意見、また南さんの修正意見も
ありましたが、いかががいたしましたでしょうか。修正意見を一つてきめましようか。
それとも原案に賛成をして下さるか下さらないかという決をただちにどつたほうがよ
しゆうございませうか、どうでございませうか。

○ 下条委員

またよく御研究願うとして、委員会の決議通りきめたらどうですか。

○ 北岡委員

私、結論は賛成するのでありますけれども、ちよつと留保したい。それは対策要網の
一番の根本方針として「経済の計畫化及び産業構造の徹底した再編成」、最後に「各論
的、実践的な主要事項については」なおそのつど決議するとありますから、この問題に
ついては各論的、実践的な審議がされるものということを期待しまして、そういう
条件つきでこれに賛成いたします。(拍手)

○ 永井委員長

それでは、皆さんのお考えも原案を御承認下さつたものと認めまして、御異存ござい
ませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○ 永井委員長

それでは、総意をここに反映して、決定いたしました。

○ 山中委員

私の説明のしかたが下手でございまして、いろいろお手数をかけましたことは申訳なかつたのでありますが、幸い皆さまから決議をお認め頂きまして、委員会にかわりましてお礼申し上げます（拍手）

○ 永井委員長

それでは、これで閉会いたします。

午後零時三十八分散会

